

挨拶文

WFB創立六十周年祝典の開催を心より喜び、財団法人全日本仏教会を代表してご挨拶を申し上げます。

WFBは世界の仏教徒が交流親善を図ると共に、釈尊の崇高な教義の普及と世界平和への貢献を目的に、一九五〇年にスリランカ、当時のセイロンで設立され、大乘、上座部、金剛乗の違いを超え、世界各国から一六四の地域センターが加盟する世界で最も大きな仏教連合組織の一つとなりました。

スリランカで思い出されることは、第二次世界大戦後、サンフランシスコで開かれた対日講和会議の席上で、セイロン代表のジャヤワルダナ蔵相が「うらみはうらみにて、息むべきようなし。怨みなき心にて息む、この法かわることなし。」と、法句經の第五番を引用し、日本に対する賠償請求権を放棄すると宣言したことでもあります。さすがは仏教国の代表であると、この無怨の精神の実践に深く感銘するところでありました。

また、後にスリランカにおいて国民的英雄の一人に挙げられる、アナガリカ・ダルマパーラ師が設立したセイロン大菩提会の招請をうけ、大菩提会セイロン本部寺院の落慶奉賛団の一員として、敬虔な仏教国セイロンに渡錫することが出来たことも、私にとって感慨深い経験であります。

日本は第二次世界大戦において、アジア諸国に対し非常な苦痛を与え、損害を強いることとなりました。過去の過ちに対する懺悔と反省の上に立ち、世界平和のために一層の努力をしていかなばならないと思っています。

我が国は大戦末期、広島市、長崎市に二発の原子爆弾の投下を受け、二十万人の生命が一時に奪われました。この人的物的被害の悲惨さは、人類が有史以来、初めて体験したもので、筆舌に尽くし難いものでありました。しかしながら、日本は仏教精神に基づき、堪え忍んで矛を収め、平和の門を開きました。原爆被災の実情は広島、長崎の原爆資料館に生々しく展示され、世界中から訪れた人々に深い痛恨と悲痛の思いを起こさせています。このような悲劇が二度と繰り返されることのないよう、心より願うものであります。

敬愛する世界の仏教徒の皆様、そして日本が尊敬する仏教国スリランカの皆様、法句経第一二九番の「すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」という釈尊の教えに従い、世界平和の道を開かれることを衷心よりお願い申し上げます次第であります。

また、近年世界中で多発しております自然災害に対し、WFBでは人道支援基金を常時開設し、仏教精神に基づき迅速な支援活動をしてまいります。全日本仏教会では、被災した方々が一日でも早く

平穩な生活を取り戻せますよう祈念申し上げると共に、ここにW F B 人道支援基金へ五百万円の寄託をさせていただきます。

今後もW F Bの活動が世界中の仏教者連帯の機縁となり、仏教の縁起観に基づき、共生、和合の実現に向けて、世界の仏教徒が更に連携することを念願して、ご挨拶といたします。

合 掌

二〇二〇年十一月十六日

全日本仏教会会長

河野 太通